

論文

慣用色名の認識について (第3報)

性差が与える影響

The Recognition of Color Names (Part 3)

(Influence by Sex)

盛田真千子

Machiko Morita

Bunka Women's University

香川 幸子

Sachiko Kagawa

Bunka Women's University

Abstract

Common color names are understood by everyone, and everyone must be able to imagine the colors, but a society of rapidly changing times, and developing diversification and individualization, is not necessarily limited to a unified recognition. Therefore, we conducted a survey of young men regarding how color names are recognized, and factors exerting influence on that recognition, and performed a comparative investigation with Part 1-2.

With young men, from 105 color names selected from "JIS Z 8012", 53.3% color names were recognized, 18.1% were vaguely recognized, and 28.6% were not recognized.

Seven factors were extracted from factor analysis of the life awareness of the survey subjects, and a difference between men and women was seen in factor composition. This was that men were more interested than women in economics and foreign culture, and less interested in handicrafts. Men's degree of recognition of color names was high in such directly named color names as the pigments "JIS S 6028", "JIS S 6026", and "JIS S 6006". Women were better able to correctly grasp the color of color names than men, and the fact that they recognize many color names is considered to be influenced by greater interest in women's clothing colors and colors in general. Moreover, color names strongly related to culture and the living environment were tied to a high level of recognition, and a tendency for warm colors to be easier to recognize than cool colors or purple-tint colors was also seen in the men's survey.

要 旨

慣用色名は誰にでも理解され、色が想像できるものでなければならないのだが、時代変化の激しさと、多様化、個性化の進展している社会のなかで、認識が必ずしも一致するとは限らない。そのため、色名がどのように認識されているか、また、その認識に影響を及ぼす諸要因について、若年層の男子に調査を実施し、第1報、第2報と比較検討した。

若年層の男子においては、JIS Z 8012から選出した105語の慣用色名で、認識がされている色名は53.3%、認識があいまいな色名は18.1%、認識がされていない色名は28.6%であった。被調査者の生活意識の因子分析では7因子が抽出され、因子の構造に男女間で差がみられた。男子は女子より、経済や外国の文化に関心が高く、手工芸には関心は低い傾向にあった。男子の色名の認識度は、JIS S 6028, JIS S 6026, JIS S 6006などの顔料に直接、記名されてある色名で、認識が高かった。女子は男子より色名の色を正確に把握し、色名も多く認識していた。これは、女性の服装色や色に対する関心が高いことが、影響していると考ええる。また、文化や生活環境と深く結びついた色名が、高い認識につながり、暖色系の色名は、寒色、紫系統の色名より認識されやすい傾向が、男子の調査でもみられた。

1. 緒言

慣用色名には、色の想起がかなり正確に伝達できる色名もあるが、社会変化の激しい今日においては、その認識に世代差がみられる色名がある¹⁾²⁾。また、情報化社会のため、さまざまな分野で多様化、個性化が進展しており、同世代の男女間でも、生活の意識や関心に対して多様化がみられ、その相違は、色名の認識にも影響を与えると考えられる。そこで、今回は性差が色名の認識に与える影響について、若年層の男子を対象とした調査を実施し、第1報、第2報との比較から検討した。

2. 調査方法

調査は、第1報、第2報と同一の質問紙調査法により、首都圏在住の男子16-18歳の148名を対象に、1989年11月に実施した。第1報、第2報の女子の結果と比較し、性差について検討する方式をとった。

3. 集計及び解析方法

第1報と同じである。また、第1報と第3報の被調査者間の χ^2 検定、平均値の差の検定も行った。

4. 結果及び考察

4.1. 慣用色名の認識度

調査に用いた慣用色名は105語である。105語を単純集計した結果を、第1報の基準で下記の3つに大別した。

①慣用色名の色域が認識されている色名：56語

(53.3%)

②慣用色名の色域があいまいな色名：19語

(18.1%)

③慣用色名の色域が認識されていない色名：30語

(28.6%)

①②③の結果は第1報の女子の結果と χ^2 検定を行ったが、有意差は認められず、この分類では性差がみられなかった。

4.2. 慣用色名の反応色域とJIS値との比較

慣用色名の認識度で大別した3グループをJIS値³⁾と比較し、反応傾向により9タイプに分類(表1-1 A, 2 A, 1 B, 2 B, 3 B, 1 C, 2 C, 1 D, 1 E)を行い、性差、世代差の顕著な色名を、図1に示した。また、同世代の男女の分類結果を、比較考察した。

1 Aの12語の色名は、被調査者の35%以上がJIS値の近似した色票に集中する反応を示し、またJIS値を中心にした色域の周辺の色票にも反応はあるが高い反応はみられないものである。このようなことから、この色名は色をかなり正確に伝達できる色名といえる。12語のうち、だいたい(又はオレンジ)、かき(柿)色、肌色、あい(藍)色、山吹色など10語は女子でも1 Aに分類された。しかし女子ではレモン色は2 Aに、ココア色は1 Bに分類されたが、1 Aに属する色名は、男子より8語多かった。これらの色名は日常よく見かける事物の色名や顔料、染料名などであるが、女子の方が色みを正しく把握し、より多くの色名を認識している傾向がある。

2 Aに属する墨(すみ)、からし(芥子)色、茶色(ブラウン)、チョコレート色の4語の色は、JIS値近似色票にはそれほど高い反応はせず、JIS値より、やや色域の異なる色票に顕著に反応したものである。女子でもこれらの色名は、2 Aに分類され、男女同ような反応傾向がみられたが、4語とも女子の方が高い反応を示した。また女子はこれ以外にも2 Aに属する色名が8語あった。

1 Bの6語は、1 Aの反応傾向に似ているがJIS値の近似色票に1 Aほど顕著でないものである。6語のうち、黄土色(イエローオーカー)、くり(栗)色、ローズ、エメラルドグリーンは、女子でも1 Bに分類されたが、ワインレッド、らくだ色は、女子ではJIS値の近似色票に高い反応を示す1 Aに属した。各色名とも女子の方がJIS値近似色票に高い反応がみられ、女子の方が正確に色名を認識していることがうかがえる。

2 Bの22語は、色名に対し色をイメージはするが個人差が生じ、JIS値近似色票を中心に近隣する2~4色で平均的に反応しているものである。22語の色名の中で、焦茶(バーントアンバー)、空色(スカイブルー)、桃色など8語は女子でも2 Bに分類され、色票への反応傾向に男女の差が少なかった。しかし、女子では象げ(牙)色、小麦色、紅(べに)色など6語は1 A、また水色、ピンク、紫紺は2 A、卵色、ねずみ(鼠)色など4語は1 Bに分類され、男子よりJIS値近似色票や、やや色域の異なる色票に集中して反応する傾向がみられた。この2 Bタイプの分類でも女子の方が、多くの語を知っている結果となった。

3 Bの12語の色名は、JIS値近似色票への反応が2 Bよりさらに低く、JIS値からやや離れたところ

表1 慣用色名とその反応色 (男子)

1A

色名 () 由来	10%以上の反応 () PCCSトーンの略号 ※はJIS値近似色 () JIS近似色10%未満			10%未満 の反応	回答不可
だいだい (れん) (植)	71.6%(v5) ※	10.8%(v6)		17.6%	0.0%
かき (柿) 色 (植)	50.0%(v5) ※	25.7%(v4)	10.8%(v3)	10.8%	2.7%
肌色 (他)	48.6%(p6) ※	14.9%(p4)	14.9%(lt6)	21.6%	0.0%
あい (藍) 色 (植)	47.3%(dp18) ※	10.8%(v19)		35.1%	6.8%
山吹色 (植)	45.3%(v7) ※	16.2%(v6)		28.4%	10.1%
レモン色 (植)	39.2%(v8) ※	34.5%(lt8)		21.6%	4.7%
クリーム色 (飲)	39.2%(p8) ※	14.9%(lt8)	13.5%(offw8)	31.7%	0.7%
朱色 (ハニワ) (鉦)	38.5%(v3) ※	25.7%(v4)	12.2%(v2)	12.8%	10.8%
たんぽぽ色 (植)	38.5%(v8) ※	23.0%(v7)	14.2%(lt8)	11.5%	12.8%
ココア色 (飲)	38.5%(dk4) ※	22.3%(dk2)		39.2%	0.0%
ひまわり色 (植)	35.1%(v7) ※	35.1%(v8)		19.7%	10.1%
桜色 (植)	36.5%(p24) ※	19.6%(lt24)		39.2%	4.7%

2A

墨 (すみ) (他)	57.4%(N1.0)	16.9%(N2.4) ※		23.7%	2.0%
からし (芥子) 色 (植)	39.8%(v8)	16.2%(v7)	(0.0%(d8) ※)	27.1%	16.9%
茶色 (チカ) (植)	39.8%(dk4)	36.5%(dp4)	(4.1%(dk6) ※)	23.7%	0.0%
チョコレート色 (飲)	36.5%(dk4)	34.5%(dk2)	(9.5%(dkg2) ※)	29.0%	0.0%

1B

ワインレッド (飲)	33.1%(dp24) ※	27.7%(v24)	10.8%(v1)	20.3%	8.1%
らくだ色 (動)	27.0%(d6) ※	25.0%(dp6)		35.8%	12.2%
くり (栗) 色 (植)	25.7%(dk4) ※	21.6%(dk6)	12.8%(dp4)	25.7%	2.0%
ローズ (植)	24.3%(v1) ※	22.3%(v24)	10.8%(dp24)	37.9%	4.7%
黄土色 (イエロー) (鉦)	23.0%(dp6)	20.2%(dp8) ※	10.1%(v6)	27.1%	9.5%
エメラルド グリーン (鉦)	23.0%(b12) ※	12.8%(b14)	10.8%(lt12)	48.7%	4.7%

2B

焦茶 (ブラウン) (植)	17.6%(dkg6) ※	16.9%(dk2)	15.5%(dk4)	15.5%(dk6)	14.2%(dkg2)	12.2%(dkg4)	8.1%	0.0%
ピンク (植)	22.3%(lt2) ※	20.9%(p24)	20.2%(p2)	15.5%(lt24)	10.1%(lt24)		10.3%	0.7%
空色 (スカイ) (他)	19.6%(p16) ※	15.5%(b18)	14.9%(b16)	13.5%(p18)	12.8%(lt18)	12.2%(lt16)	8.8%	2.7%
水色 (白)	23.6%(lt16)	19.6%(p16) ※	18.9%(lt18)	13.5%(b16)	11.5%(b18)		10.2%	2.7%
みかん (蜜柑) 色 (植)	33.1%(v5)	27.0%(v6) ※	23.6%(v7)				14.3%	2.0%
桃色 (植)	19.6%(p2)	17.6%(lt2) ※	16.9%(p24)	16.9%(lt24)	12.2%(p4)		16.1%	0.7%
紅 (べに) 色 (植)	32.4%(v1)	27.7%(v2) ※	10.8%(v24)				25.0%	4.1%
卵色 (動)	16.9%(lt8) ※	16.9%(offw8)	14.2%(v7)	11.5%(v8)			31.0%	9.5%
紫紺 (植)	19.6%(dk20)	17.6%(dp20)	16.2%(dk22) ※				22.3%	24.3%
群青 (群青) 色 (鉦)	20.9%(dp18)	16.2%(v19) ※	11.5%(dk18)				37.2%	14.2%
さび (錆) 色 (鉦)	13.5%(dk4) ※	12.2%(dp4)	11.5%(dp4)	10.8%(dk2)			31.1%	20.9%
小麦色 (植)	26.4%(dp6)	18.9%(d6) ※					42.5%	12.2%
ねずみ (鼠) 色 (動)	20.2%(N5.5) ※	14.9%(g20)	10.1%(N6.5)				50.7%	4.1%
ベビーピンク (植)	16.9%(p4)	14.9%(p2) ※	12.2%(p24)				32.4%	23.6%
ピーチ (植)	17.6%(lt2)	12.8%(lt24)	11.5%(b4)	(9.5%(p4) ※)			52.7%	5.4%
サーモンピンク (動)	15.5%(b4)	14.9%(b2)	11.5%(lt2)	(8.1%(lt4) ※)			47.3%	10.8%
うぐいす (鶯) 色 (動)	19.6%(v10)	11.5%(d10) ※	10.1%(dk10)				41.2%	17.6%
象げ (象牙) 色 (動)	23.0%(p8)	12.8%(offw8) ※					46.6%	17.6%
金茶 (他)	18.9%(dp8)	10.8%(dp6) ※					33.1%	37.2%
あかね (茜) 色 (植)	15.5%(v3)	13.5%(v4)		(6.1%(v2) ※)			45.3%	25.7%
すみれ (紫) 色 (植)	12.2%(v20)	11.5%(v22)		(7.4%(v21) ※)			56.1%	20.2%
若草色 (植)	25.0%(v11)	10.8%(b10)		(8.1%(v10) ※)			52.7%	11.5%

3B

草色 (植)	18.2%(v12)	17.6%(v10)	16.2%(v11)	11.5%(dp12)	10.1%(v13)	(0.7%(d10) ※)	21.7%	4.7%
なす (茄子) 紺 (植)	25.0%(dp22)	18.2%(dp20)	14.2%(dk20)	12.2%(dk22)		(0.0%(v10) ※)	14.9%	15.5%
紺 (ネーブル) (他)	30.4%(dp18)	19.6%(dk20)	15.5%(dk18) ※				25.7%	8.8%
あずき (小豆) 色 (植)	31.8%(dp24)	21.6%(dp2)	11.5%(v1)		(7.4%(dk2) ※)		31.7%	3.4%
れんが (煉瓦) 色 (鉦)	31.8%(dp4)	27.0%(dp2)			(2.0%(d4) ※)		33.8%	7.4%
マリンブルー (白)	27.0%(v18)	14.2%(b18)	12.2%(b16)		(5.4%(v16) ※)		41.2%	5.4%
紅梅色 (植)	29.1%(v1)	12.2%(v24)	10.8%(v2)		(2.0%(lt2) ※)		32.6%	15.3%
まっ (抹茶) 茶色 (飲)	25.7%(dp10)	12.8%(d10) ※	12.8%(dk10)				44.6%	4.1%
ストロベリー (植)	27.7%(v2)	11.5%(v1) ※	11.5%(b24)				43.2%	6.1%
コバルトブルー (鉦)	19.6%(v18)	18.2%(v19)			(4.1%(b18) ※)		38.6%	23.6%
こけ (苔) 色 (植)	20.9%(dk10)	12.2%(dk12)			(3.4%(d10) ※)		51.4%	15.5%
緑青 (グリー) 色 (鉦)	21.6%(v14)	10.8%(dp14)			(1.4%(d12) ※)		41.2%	26.4%

1C

色名 () 由来	10%以上の反応 () PCCSトーンの略号 ※はJIS値近似色 () JIS近似色10%未満	10%未満 の反応	回答不可
あんず (杏) 色 (植)	10.8%(v3) 10.8%(dp2) (0.0%(lt6) ※)	53.4%	25.0%
もえぎ (萌木萌黄) 色 (植)	13.5%(v12) (6.8%(b10) ※)	43.9%	42.6%
えんじ (臙脂) 色 (動)	12.8%(dp24) (9.5%(dp2) ※)	44.6%	42.6%
コバルトグリーン (鉍)	12.8%(b12) ※	64.9%	22.3%
青竹色 (植)	12.2%(v13) (2.7%(lt14) ※)	70.9%	16.9%
江戸紫 (地)	12.2%(dp22) (1.4%(dp24) ※)	49.3%	38.5%
えび (蝦) 茶 (動)	11.5%(dp2) (2.0%(dk2) ※)	56.7%	31.8%
ベビーブルー (他)	10.8%(p18) (6.8%(p16) ※)	40.1%	49.1%
ブロンド (他)	10.1%(lt8) ※	52.7%	37.2%
かっ (褐) 色 (他)	10.1%(dk4) (7.4%(dk6) ※)	64.9%	25.0%
銀ねず (シルバー) (鉍)	10.1%(ltg22) (4.7%(N6.5) ※)	58.1%	31.8%

2C

色名 () 由来	JIS値近似色	10%未満 の反応	回答不可
さんご (珊瑚) 色 (動)	6.8%(b2)	84.5%	15.5%
鉄色 (鉍)	3.4%(dk14)	68.2%	31.8%
ページ (動)	1.4%(p6)	65.5%	34.5%
はと (鳩) 羽色 (動)	0.7%(d22)	62.2%	37.8%
藤 (ふじ) 色 (植)	3.4%(lt20)	58.1%	41.9%
あやめ (植)	6.1%(v21)	56.8%	43.2%
セルリアンブルー (他)	9.5%(b16)	55.4%	44.6%
オリーブグリーン (植)	1.4%(dk10)	50.7%	49.3%

1D

色名 () 由来	JIS値近似色	10%未満 の反応	回答不可
かば (樺) 色 (植)	2.0%(dp4)	35.8%	64.2%
こはく色 (アパ) (鉍)	4.7%(d6)	34.5%	65.5%
チャコールグレイ (他)	3.4%(N2.4)	34.5%	65.5%
ターコイズブルー (鉍)	1.4%(b16)	33.1%	66.9%
スカーレット (他)	2.0%(v4)	31.1%	68.9%
ピーコックグリーン (動)	1.4%(v13)	30.4%	69.6%
とき (鶉) 色 (動)	0.7%(lt24)	25.0%	75.0%
ききょう桔梗 色 (植)	1.4%(v19)	24.3%	75.7%

1D

オリーブ (植)	0.7%(dk8)	49.3%	50.7%
カーキ (鉍)	4.1%(d8)	45.3%	54.7%
カナリヤ色 (動)	3.4%(b8)	45.3%	54.7%
利休ねずみ (鼠) (人)	1.4%(N5.5)	48.3%	51.7%
古代紫 (他)	6.1%(v21)	46.6%	53.4%
るり (瑠璃) 色 (鉍)	2.7%(v18)	42.6%	57.4%
ラベンダー (植)	0.7%(lt22)	39.9%	60.1%
セピア (動)	0.0%(dk6)	39.2%	60.8%
ぼたん (牡丹) 色 (植)	9.5%(v24)	39.2%	60.8%
露草 (ゆさ) 色 (植)	0.0%(v20)	38.5%	61.5%
青磁色 (他)	0.7%(d12)	37.8%	62.2%

1E

納戸 (なんど) 色 (他)	0.0%(d16)	21.0%	79.0%
ライラック (植)	1.4%(lt22)	20.9%	79.1%
シアン (鉍)	1.4%(v9)	12.2%	87.8%
きな (生成) り色 (他)	0.7%(offw8)	11.5%	88.5%
新橋色 (地)	0.0%(lt16)	10.8%	89.2%
すおう (蘇芳) (植)	0.0%(d2)	10.1%	89.9%
あさぎ (浅葱) (植)	0.0%(b16)	8.8%	91.2%
モーブ (他)	0.0%(dp22)	8.1%	91.9%
たいしゃ (代鉢) 色 (鉍)	0.0%(dp2)	7.4%	92.6%
はなだ (緑) 色 (他)	0.0%(d18)	5.4%	94.6%
マゼンタ (地)	0.0%(v24)	5.4%	94.6%

色名 () は由来の略 (植) 植物 (動) 動物 (鉍) 鉍物 (飲) 飲食物 (地) 地名 (自) 自然現象 (人) 人名 (他) その他

で色域に広がりをもって反応しているものである。12語のうち、草色、紅梅色、ストロベリー、緑青 (ろくしょう) の色名は、女子でも3日に分類された。しかし女子では、まっ (抹) 茶色、れんが (煉瓦) 色、こけ (苔) 色、紺 (ネービーブルー) は2Aに、なす (茄子) 紺、マリンドブルー、あずき (小豆) 色、コバルトブルーは2Bに分類され、これらの色名は、男子より認識が高い傾向にあった。

1C, 2Cに属する色名は、反応した色票にばらつきがあり、JIS値近似色票からもかけ離れて反応するなど、色の認識が難しい傾向のものである。1Cでは、あんず (杏) 色、もえぎ (萌木、萌黄)、えんじ (臙脂)、ベビーブルーなど11語が分類されたが、女子ではベビーブルー、えんじ (臙脂) はJIS値近似色票に高反応を示す1Aに分類され、性差が認められた。また2Cには、さんご (珊瑚) 色、ページ、藤 (ふじ) 色など8語が属したが、女子では藤 (ふじ) 色は

1Bに分類されており、男女の差が認められた。

1D, 1Eは、色名から色を具体的に結びつけられない割合が高い色名である。1Dではオリーブ、カーキ、古代紫、ぼたん (牡丹) 色など19語、1Eでは納戸 (なんど)、ライラック、きな (生成) り色など11語が含まれた。女子では1Dに8語、1Eに10語が分類され、男子より回答できない色名は少なかった。男女とも回答できない色名は、限られた分野で使われる色名や、日常生活からかけ離れた伝統色名、または一時期流行し、その時期を知らないと理解できない色名などであった。一方、認識に大きな性差が認められた色名は、きな (生成) り色で、男子では回答できない被験者が88.5%を占めたが、それに対して、女子の被験者は13.4%と低く、また、その認識もJIS近似色票の3.0Y 9.0/1に55.9%、次いで3.5Y 8.7/3.2に13.9%と被験者の69.8%が、色名の色を正確にイメージしており、1Aに分類されていた。きな (生成)

り色は、自然のままで、染めたりさらしたりしない糸や生地の色のことである。ファッションに敏感な若い女性は、洋服や生地の色を呼び表すときに使用頻度が高く、それが色名の認識に差が生じる要因と考えられる。

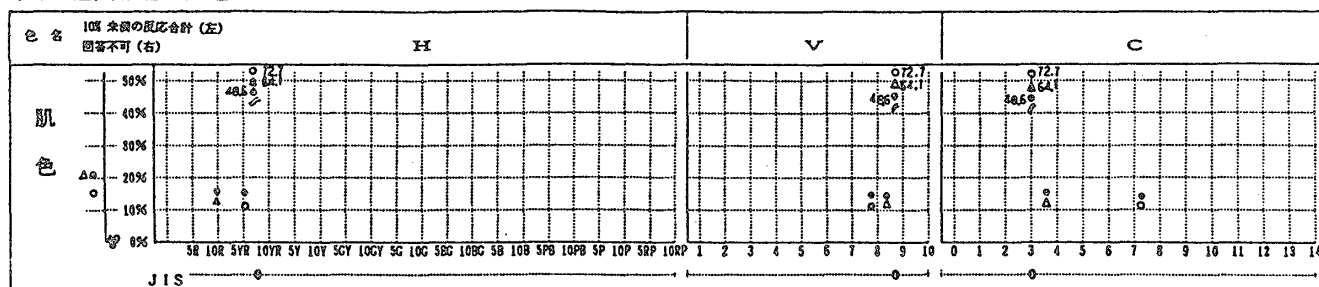
1 A-Eのグループの色名を比較した結果、女子の方が色名の色み正確にイメージし、多くの色名を認識していた。このことは色の嗜好や服装色などが影響しているのではないかとと思われる。男性は好みが特定

の色に集中しやすく、女性は好みが多色に分散し、また女性の服装色は、色の嗜好や個性表現さらに流行色の浮き沈みの激しさなどによって男性より多くの色を用いる⁴⁾⁵⁾。このような女性の傾向が、色に対する関心や、色名の認識を高めていると考えられる。

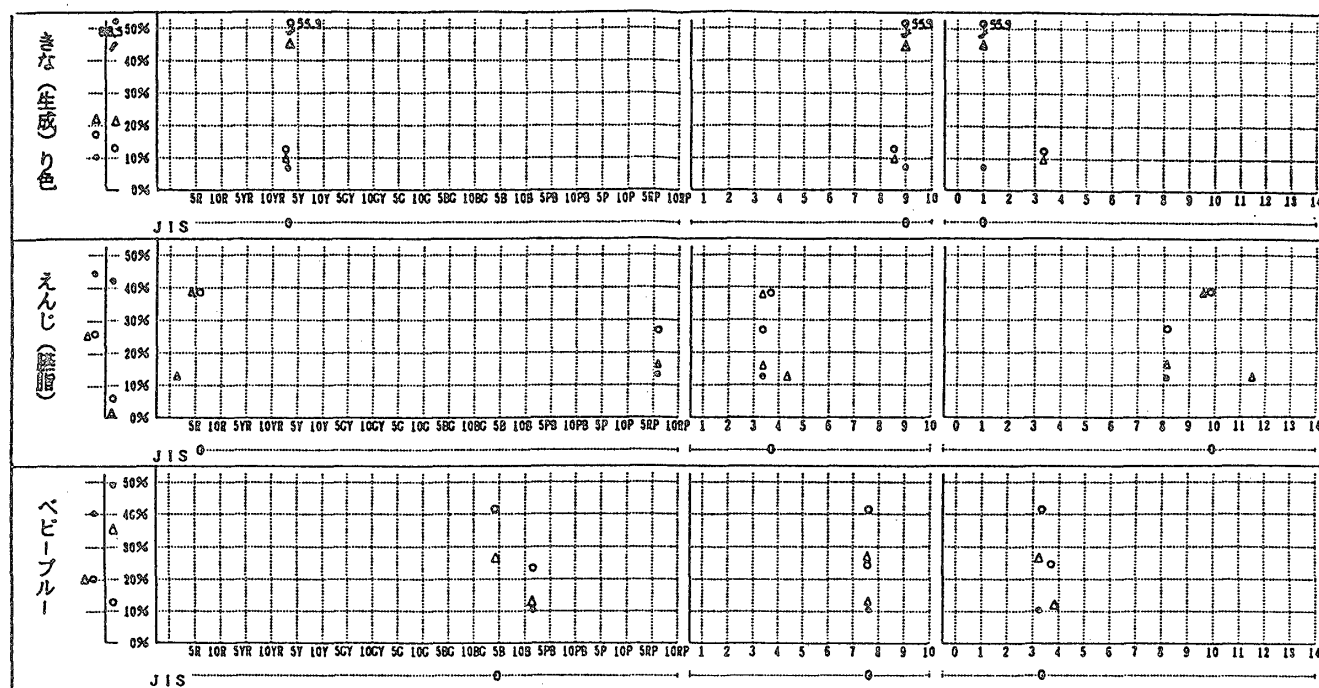
4.3. 色名の認識における性差、世代差

慣用色名の認識度の9タイプの分類を、若年層男子、若年層女子、そして、その母親にあたる世代、それぞ

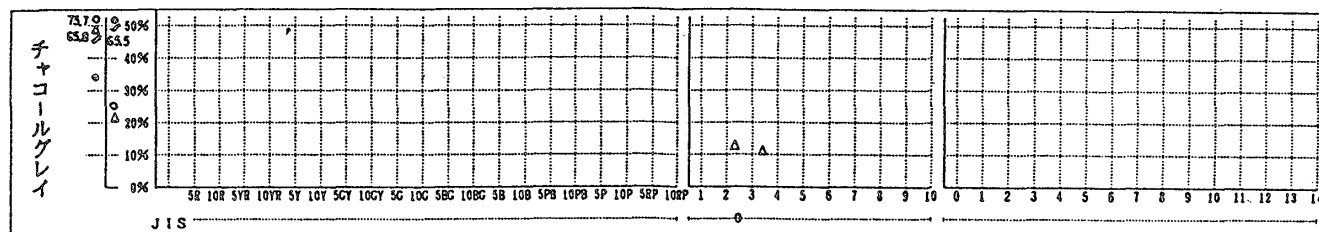
(1) 性差、世代差がない色名



(2) 性差がある色名



(3) 世代差がある色名



- 若年層男子
- △ 若年層女子
- ◇ 母親

図1 色名の認識分布

れについて比較し検討したものが、表2-1(1)(2)(3)である。

4.3.1. 性差、世代差がない色名

だれもが色名の色を正確にイメージできる語は、だいたい（又はオレンジ）、肌色、クリーム色など1Aタイプに属している9語で、この9語ほど正確ではないが、墨、チョコレート色、くり（栗）色など10語の色名も色名の認識にやや差があるものの性差、世代差なく認識されている色名である。一方、認識があいまいな色名は、コバルトグリーン、かば（樺）色、認識されていない色名はシアン、モーブ、新橋色など7語で、これらは、主に伝統色名や染色、印刷業界で用いられている色名であるため、性差、世代差に関係なく全く色名と色が結びつかなかった。

4.3.2. 性差がある色名

慣用色名の認識が、若年層の女子とその母親において、同一またはそれに近いタイプに分類されたのに対し、男子は女子とは差が生じた、きな（生成）り色、えんじ（臙脂）、ベビーブルー、江戸紫など15語は、色名の認識に性差があるといえる。特に性差が生じた語は、きな（生成）り色で、女子は服装の色を呼ぶときによく用いる。ベージュ、水色、紺（又はネービーブルー）、藤色、えんじ（臙脂）なども服装色としてよく使われている。服装の色は、男子が特定の色域に集中した色を着用する傾向に対し、女子は比較的多くの色域に分散した色を着る傾向にある。女子にとっては、服装の色が、色の関心度や色名の使用頻度を高め、色名の認識度にも影響を与えている要因の一つとなっていると考えられる。

4.3.3. 世代差がある色名

慣用色名の認識が、若年層の男女において、同一またはそれに近いタイプに分類され、母親は若年層と差を生じた語は、チャコールグレイ、ききょう（桔梗）色、カナリヤ色、オリーブグリーンなど8語で、こ

表2 色名の認識度

(1) 性差、世代差がない色名

色 名	認識			あいまい			不認識			時代	JIS
	1A 2A 1B 2B 3B			1C 2C			1D 1E				
	女子	男子		女子	男子		女子	男子			
	母親	若年	若年	母親	若年	若年	母親	若年	若年		
たいだい(わんた)	1A	1A	1A							明治	ク.ス.エ.
肌色	1A	1A	1A							現代	ク.ス.エ.
クリーム色	1A	1A	1A							明治	
山吹色	1A	1A	1A							平安	ク.ス.エ.
かき(柿)色	1A	1A	1A							平安	
あい(藍)色	1A	1A	1A							平安	ク.ス.エ.
朱色(あまいろ)	1A	1A	1A							奈良	ク.ス.エ.
桜色	1A	1A	1A							平安	
ひまわり色	1A	1A	1A							現代	
墨	2A	2A	2A							平安	
チョコレート色	2A	2A	2A							現代	
くり(栗)色	1B	1B	1B							室町	
空色(あけがた)	2B	2B	2B							平安	ク.ス.
桃色	2B	2B	2B							江戸	ク.ス.
サーモンピンク	2B	2B	2B							現代	
ピーチ	2B	2B	2B							現代	
あかね(茜)色	2B	2B	2B							平安	
すみれ(菫)色	2B	2B	2B							明治	エ.
紅梅色(わんた)	3B	3B	3B							平安	ク.ス.
コバルトグリーン				1C	1C	1C				現代	
かば(樺)色							1D	1D	1D	江戸	
シアン							1E	1E	1E	現代	
モーブ							1E	1E	1E	現代	
新橋色							1E	1E	1E	明治	
マゼンタ							1E	1E	1E	現代	
すおう(蘇芳)							1E	1E	1E	奈良	
たいし(代赫)色							1E	1E	1E	明治	
はなだ(縹)色							1E	1E	1E	奈良	

(2) 性差がある色名

きな(生成)り色	1A	1A					1E	現代	
えんじ(臙脂)	1A	1A			1C			明治	ク.
ベビーブルー	1B	1A			1C			現代	
江戸紫	1B	1B			1C			江戸	
ぼたん(牡丹)色	2B	2B					1D	江戸	
藤(ふじ)色	2B	1B			2C			平安	ク.ス.
あやめ	1B	2B			2C			室町	
ベージュ	2B	3B			2C			現代	
銀ねず(シルバー)	2B	2B			1C			江戸	
ブロンド	2B	2B			1C			明治	
古代紫	3B	2B					1D	明治	
さんご(珊瑚)色	3B	3B			2C			明治	
カーキ	2B	3B					1D	明治	
水色	1A	2A	2B					平安	ク.ス.
紺(ネービー)色	2A	2A	3B					飛鳥	

(3) 世代差がある色名

チャコールグレイ	2B				2C			1D	現代	
ききょう(桔梗)色	2B				1C			1D	平安	
カナリヤ色	2B				1C			1D	江戸	
オリーブグリーン	2B				2C	2C			現代	
もえぎ(萌木萌黄)	2B				2C	1C			平安	
かつ(褐)色	2B				2C	1C			江戸	
えび(蝦)茶	2B				1C	1C			明治	
鉄色	3B					2C		1D	江戸	

※時代分類 6) 11) 12)

これらの語は、若年層より母親の方で認識が高かった。なかでもチャコールグレイの語に、差がみられた。チャコールグレイの色名は、戦後の経済成長時代に一般化した色名で⁶⁾、この時代を知っているか否かによって、色名の認識も分かれたといえる。また、嗜好色について、「暗い青、黒、茶などは加齢とともに、好みの増加する色である」と日本色彩研究所の調査報告⁷⁾にあるが、えび（蝦）茶、かつ（褐）色、オリーブグリーン系の茶系や暗い色の語がみられる。

4.4. JIS値と色域の異なる慣用色名

若年層男子でJIS値近似色票よりやや異なった色域に反応が示された15.2%の色名、16語（表1-2A、3B）について、三属性のどの属性で相違がみられるかを分析し、若年層女子と母親の結果と比較した（表3）。

16語の色名の中で、高彩度傾向を示した色名は10語と多かったが、からし（芥子）色、チョコレート、草色、紺（ネービーブルー）、れんが（煉瓦）、紅梅色は、女子、母親でも同傾向にあり、性差、世代差がみられなかった。しかし、コバルトブルーは男子のみに高彩度傾向が示された。一方、低彩度傾向はストロベリー、こけ（苔）色で、若年層の男子と女子にみられた。また、低明度傾向は墨（すみ）で、男子、女子、母親ともに顕著であった。色相においては、マリンプルーの語に、男子のみ青に寄る傾向がみられた。

4.5. 生活意識における性差と慣用色名の認識

慣用色名の認識調査と同時に男子の生活意識調査も実施した。図2は18項目の質問に対する男子と第1報の女子の平均評点と、男子と女子間における平均値の差の検定結果を図中に示したものである。

その結果、8項目においては有意差が認められず、男女とも、コマーシャルに対する反応は敏感であり、新しいものに興味を持つ積極性がみられた。一方、男女間で有意差が認められた項目は10項目（1%水準5項目、5%水準5項目）あり、男子は女子に比べ、経済の動きに対しての関心が強く、外国文化への関心や読書量もやや上回る傾向がみられた。だが、手工芸的な染織や旅行に対する関心は女子より低く、嗜好色においては明るい色を好む傾向にあった。

次に男子の評定を因子分析（主因子法、バリマックス回転、固有値1.0以上）を行った結果、7因子が抽出された。表4は各因子の因子負荷量であり、表5は

因子名とその寄与率で、累積寄与率は65.0%であった。第1因子は、動植物に関心があり、季節の移りかわりに敏感であるところから、自然派志向性の因子とした。第2因子は好きな色に対する好みの因子で、色彩嗜好性の因子とした。第3因子は、日本の風俗や習慣、外国の文化、染織等への関心に対する因子で文化的関心性の因子とした。第4因子は人工的なものや化学繊維に対する因子で、人工的志向性の因子とした。第5因子は新しいものやコマーシャル、政治、経済に関心があり、物事に対する積極的姿勢がみられるところから、積極的活動性の因子とした。第6因子は読書や旅行に関する因子で趣味性の因子とした。第7因子は性格が慎重であるところから、慎重性の因子とした。女子では基本的因子として、第1因子は文化的関心性、第2因子は色彩嗜好性など8因子（累積寄与率68.9%）が抽出されたが、男女間での因子の構造には差異がみられた。

4.6. 慣用色名の認識に影響を与える要因について

4.6.1. 顔料の色と色名の影響

表3 JIS値と色域の異なる慣用色名（性差、世代差の比較）

色名	逸れた方向（※顕著）					
	男子			女子		
	若年層			若年層	母親	
墨（すみ）	低明度	※	左同	※	左同	※
からし（芥子）色	高彩度	※	左同	※	左同	※
茶色（チヤウ）	色相赤みの橙		左同			
チョコレート色	高彩度	※	左同		左同	※
草色	高彩度	※	左同	※	左同	※
なす（茄子）紺	高彩度	※			男子と同じ	※
紺（ネービーブルー）	高彩度		左同		左同	※
あずき（小豆）色	高彩度		左同			
れんが（煉瓦）色	高彩度		左同		左同	※
マリンプルー	色相青					
紅梅色	高彩度		左同	※	左同	
まっ（抹茶）茶色	高彩度、低明度		左同			
ストロベリー	色相赤、低彩度		やや低彩度			
コバルトブルー	高彩度					
こけ（苔）色	低彩度		低彩度			
緑青（クロアシ）色	高彩度		高彩度	※		
水色			高彩度			
ページ			高彩度、低明度			
あんず（杏）色			高彩度	※	左同	
カーキ			やや高彩度			
レモン色			低彩度	※	左同	
さんご			低彩度	※	色相紫	
群青（グンゾウ）色			低彩度、低明度		低彩度	※
ピンク			色相赤紫み			
紫紺			色相青み			
みかん（蜜柑）色					色相赤みの橙	
焦茶（ロフト）色					色相黄みの橙	
若草色					高明度	※
エメラルドグリー					高彩度	
古代紫					低明度	※
青竹色					高彩度	
オリーブ					高彩度	
鉄色					色相黄	

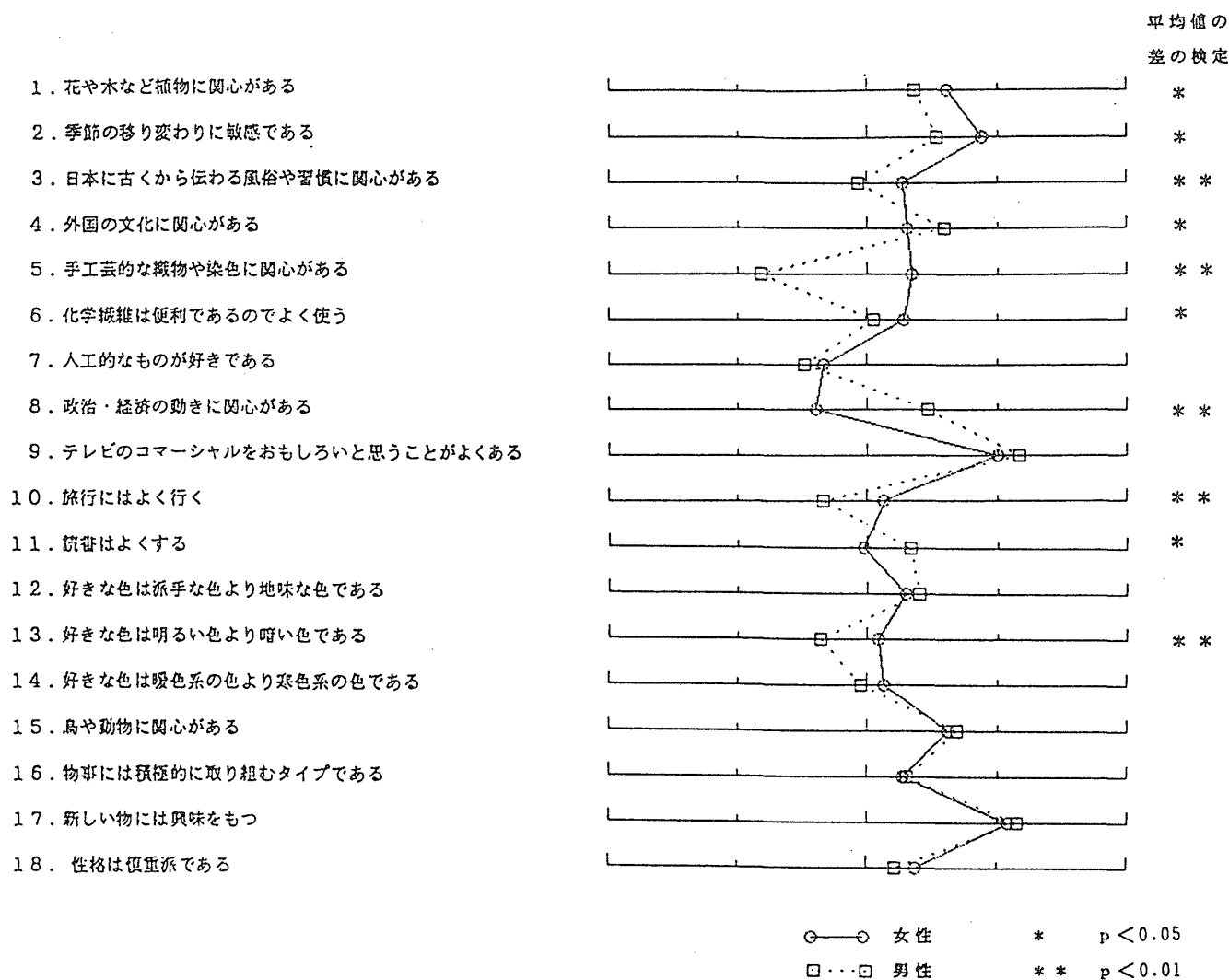


図2 生活意識のイメージプロフィール

慣用色名の認識において、水彩絵の具、クレヨン、クレパスに使用されている色名は、その顔料を使うことによって、色名と色が具体的に結びつき、色名の認識に強い影響をあたえている¹⁾²⁾。調査色名で顔料に使用されている色名について、表1から抽出してみると1A-6語、2A-1語、1B-1語、2B-5語と認識の高いグループに色名が属しているが、これは女子の方がより顕著な傾向がみられた。

表6は顔料に用いられている色名について、そのJIS値と顔料の測色値を添え、男子、女子、そして母親の反応色とJIS値を比較したものである。だいたい、肌色、山吹色、藍色、朱色は性差、世代差なく、JIS値に最も高い反応を示し、色名と色は正確に結びついていた。だが、群青色は、男子、女子、母親ともに、JIS値より低彩度の傾向の色につながった。一方、レモン色は男子がJIS値に高い反応を示したが、女子は低彩度化がみられた。桃色は男女、母親と

もJIS値より赤紫み傾向で、男子はやや高明度の傾向にあった。焦茶は女子ではJIS値よりやや高彩度化が認められた。水色は、若年層の男子がJIS値より高彩度に反応したが、みかん色、土色は若年層の女子の方がJIS値に高い反応があった。

表2-(1)(2)(3)をみると、JIS S 6006「鉛筆及び色鉛筆」⁸⁾、JIS S 6026「クレヨン及びパス」⁹⁾、JIS S 6028「水彩絵の具」¹⁰⁾など、JISでも取り上げられている色名は、色名の認識が高かった。一方、認識の低い色名の中に、JIS顔料名はみられなかった。また、色名の発生した時代について比較すると⁶⁾¹¹⁾¹²⁾、色名の認識には時代の新旧には関係がみられず、それぞれの時代の文化や生活環境などに関わりを深め、いかに頻度高く用いられているかが、色名の認識度の高さに関連していると思われる。

表4 生活意識の因子負荷量 (男子)

No.	1 因子	2 因子	3 因子	4 因子	5 因子	6 因子	7 因子
1	0.846670	0.058918	-0.138825	0.065480	0.094930	0.001314	-0.024793
15	0.716800	0.076306	-0.074016	0.099579	0.128700	-0.010717	-0.044095
2	0.709331	-0.026967	-0.176921	-0.023900	0.163415	-0.003099	0.296331
13	0.083048	0.839973	0.028168	-0.154599	0.024618	-0.020576	-0.077457
12	-0.008095	0.778678	-0.174731	0.066176	0.039420	0.097905	0.225416
3	0.176630	0.049702	-0.793726	-0.094907	0.052836	-0.090866	0.181208
4	0.034497	0.075998	-0.766713	0.066682	0.070218	-0.176443	-0.003961
5	0.283346	-0.038022	-0.653877	-0.137638	-0.005362	0.084792	-0.269154
7	-0.177415	-0.003943	-0.025512	-0.816751	0.073786	0.030338	-0.050087
6	0.082741	0.042294	-0.328793	-0.618809	0.037882	0.037907	0.146534
14	0.059659	0.382069	0.138444	-0.595446	-0.184213	-0.069133	0.119664
17	0.228804	-0.147805	-0.014385	0.013867	0.712221	-0.117212	0.160821
16	0.331964	0.159133	-0.157589	0.009679	0.641156	-0.216058	0.111621
9	-0.011183	0.024876	0.109917	-0.214691	0.586945	0.301206	-0.160214
8	0.037304	0.271762	-0.441944	0.108142	0.553803	-0.015211	0.023923
11	-0.063160	-0.007399	-0.175649	0.059628	0.016597	-0.836529	0.047060
10	0.297121	-0.161418	0.127307	-0.199776	0.276268	-0.541455	-0.289833
18	0.075140	0.074135	-0.017443	-0.048881	0.075285	0.004000	0.874411

表6 顔料の色とJIS値及び反応色の比較

色名	JIS 値	顔料の測色値※	JIS 値と※比較	反 応 色		
				男 子	女 子	
				若年層	若年層	母親
だいだい	5YR6.5/13	2.5YR6.5/14	近似	JIS 値に最も高い反応	左 同	左 同
肌色	5YR8/5	5YR8/6	近似	JIS 値に最も高い反応	左 同	左 同
山吹色	10YR7.5/13	10YR7/13	近似	JIS 値に最も高い反応	左 同	左 同
藍色	2PB3/5	2.5PB3/6	近似	JIS 値に最も高い反応	左 同	左 同
朱色	6R5.5/14	7.5R5/14	近似	JIS 値に最も高い反応	左 同	左 同
みかん色	6YR6.5/13	7.5YR7/14	近似	JIS 値よりやや赤みの橙に反応	JIS 値に最も高い反応	男子と同
黄土色	10YR6/7.5	10YR6.5/8	近似	JIS 値よりやや黄みの橙に反応	JIS 値に高い反応	JIS 値よりやや高明度に反応
桃色	2.5R6.5/8	7.5RP6.5/9	色相赤紫み	JIS 値よりやや高明度や赤紫に反応	JIS 値よりやや赤紫みに反応	左 同
焦茶	5YR3/2	5YR3/3	近似	JIS 値よりやや低彩度に反応	JIS 値よりやや高彩度に反応	左 同
水色	6B8/4	7.5B7/8	高彩度	JIS 値より高彩度に反応	左 同	JIS 値に最も高い反応
茶色	5YR3.5/4	10R3.5/8	高彩度	JIS 値よりやや高彩度に反応	JIS 値より高彩度に反応	男子と同
群青色	7.5PB3.5/11	5PB3.5/11	近似	JIS 値より低彩度に反応	左 同	左 同
レモン色	8Y8/12	9Y8.5/13	近似	JIS 値に高い反応	JIS 値より低彩度に反応	左 同

※ペンてるクレヨン、サクラクレヨン(20色)、サクラマット水彩(12色)、色名のHV/C

表5 生活意識に関する基本因子 (男子)

因子	因子名	寄与率(%)
1	自然派志向性	19.5
2	色彩嗜好性	10.8
3	文化的関心性	8.5
4	人工的志向性	8.0
5	積極的活動性	6.5
6	趣味性	5.9
7	慎重性	5.8
累積寄与率		65.0

4.6.2. パッケージ色や事物のイメージなどが与える影響

食品のパッケージ色は、今日の成熟した市場の中で、消費者の購買意欲を大きく左右する働きをしている。そのため、慣用色名は本来の物の色より、パッケージ色や色彩豊かな印刷物などの人工的な色との関連がみられた¹⁾²⁾。図3-1(1)(2)はそれぞれの色名のJIS値、物体色、パッケージ色と、男子、女子、母親の反応色の明度、彩度を比較したものである。

からし(芥子)色、チョコレート、まっ(抹)茶色の反応色は、男子、女子ともにパッケージ色に近似した色に反応がみられ、これは食品本来の物の色や、

JIS値より高彩度の色に結びついた。また、ストロベリーの色は、母親は果物の色に近く、若年層の男女はともにパッケージ色に近似した色で、JIS値より高明度、低彩度傾向の色だった。外来語のストロベリーといちごは、同意語ではあるが、若年層では外来語を用いることは、いちご本来の色ではなく、パッケージ色の人工的な色に結びつける傾向が示された。

表7は、うぐいす（鶯）色の男子、女子、母親の反応色をまとめたものである。三者ともに、JIS値より高彩度化した傾向にあり、黄緑の色相に顕著に反応した。しかし、鶯の鳥の体は、茶褐色である。よく「梅に鶯」というが、春に梅、桜、椿などの花蜜を吸う習性の鳥は、メジロであり、メジロの体は、暗黄緑色をしている。春の季節に、美しい声でさえずる鶯と、梅の花蜜を吸うメジロを混同したのであろう。鶯は北海道（繁殖期の1時期のみ）をのぞけば、周年生息しているが、広範囲の国々に生息している鳥ではない¹³⁾¹⁴⁾。「色と文様江戸下巻第10集」に、白梅に鶯（18世紀）の文様がみられるが、にぶい黄緑色で描かれている¹⁵⁾。また工芸の意匠の図案にも梅に鶯がみられる¹⁶⁾。うぐいす（鶯）色は情報の少ない時代の誤認が、そのまま日本文化に定着したものであると思われる。自然破壊が深刻化した現在、鶯やメジロをみることは、容易ではなく、これらをを知らったうえでうぐいす（鶯）色を使っていくことが、得策と考える。

慣用色名の認識は、物の本来の色が直接反映する場合と、印刷物などの人工的な色や、また日本文化の中で定着した使用頻度の高いものなどの影響を受けて認識される傾向があるといえる。特に今日では人工的な色の影響が強いが、うぐいす（鶯）色などのように、地域、文化を大切にしながら色名が用いられることが望ましい。

4.6.3. 慣用色名と記憶色の関連性

慣用色名は具体的事物と結びつけて連想する場合が多く、記憶色とのかかわりをみるため、第1.2報と同様Hellminger¹⁷⁾の実験結果に基づき、検討を試みた。記憶されやすい暖色系統（5Y～10Y）と、記憶されにくい寒色、紫系統（5B～10RP）の色名の認識を比較した（図4）。男子では記憶されやすい色名（図1-A, B）の暖色系統では全体の69.2%を占め、記憶されにくい色名（図1-C, D, E）の寒色、紫系統では38.9%で、寒色、紫系統は暖色系統に比べ、認識が低いことが伺われる。さらに、男女の結果を

χ^2 検定を行ったが、有意な差は認められなかった。

また、表3のJIS値と色域の異なる慣用色名をみると、男子では16語のうち7割近くがJIS値より高

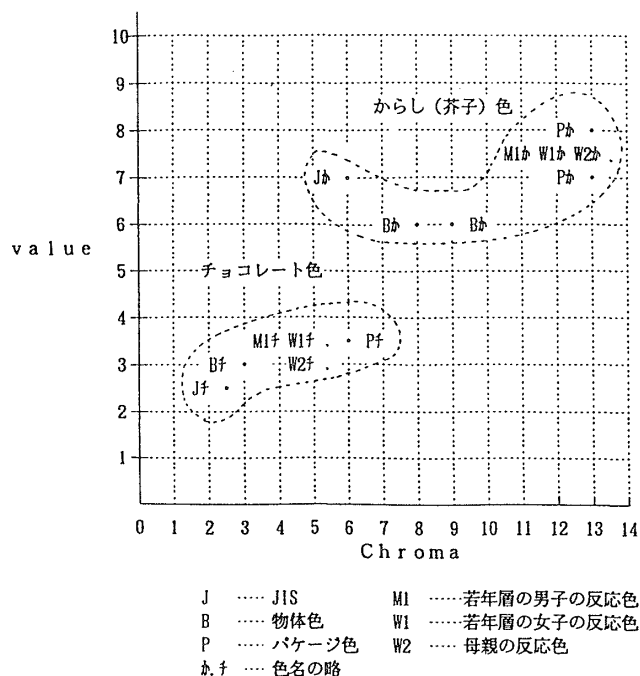
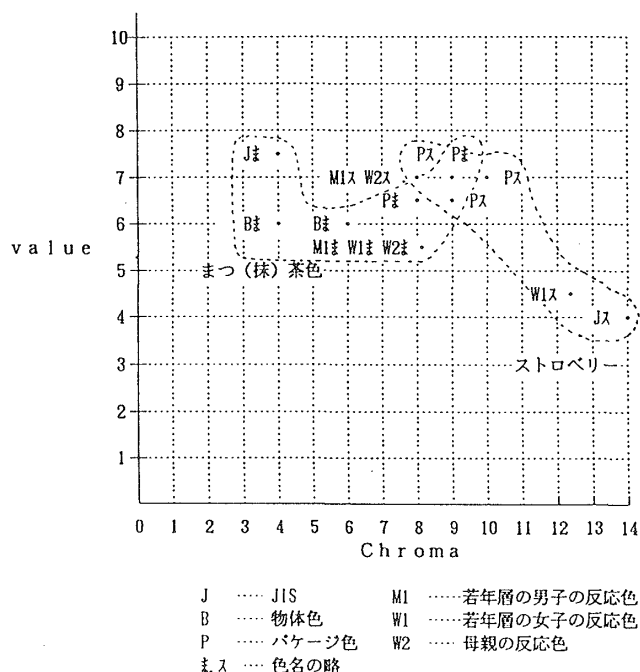


図3 (1) パッケージ色とJIS, 物体, 反応各色の比較



(2) パッケージ色とJIS, 物体, 反応各色の比較

表7 うぐいす（鶯）色の反応色

	10%以上の反応 ※JIS値近似色			10%未満	回答不可
男子	19.6%(v10)	11.5%(d10)※	10.1%(dk10)	41.2%	17.6%
女子	36.3%(d10)※	20.1%(dp10)		40.8%	2.8%
母親	19.8%(b10)	18.6%(dp10)	16.2%(dk10) 12.0%(d10) ※	28.6%	4.8%

彩度傾向のものであり、性差、世代差なく高彩度化がみられた。記憶色は、具体的事物と結びつく場合、物の本来の色より高彩度化された現象につながるが多く、物の色を特徴的にとらえようとする印象が、高彩度に誇張された結果につながり、慣用色名の認識にも影響をあたえているものと推察される。

5. まとめ

慣用色名の認識について、色名に対しその該当する色票を抽出する形式の色名認識調査と生活意識調査を、若年層の男子に実施した。この男子の調査と第1報、第2報を比較検討した。

若年層男子の慣用色名の認識では、105語の慣用色名に対し、認識がされている色名は53.3%, 認識があいまいな色名18.1%, 認識されていない色名28.6%に大別できた。また色名の反応色域をJIS値と比較したところ、JIS値よりやや異なる色に反応した慣用色名は、15.2%で、そのうち7割近くが高彩度化しており、この高彩度傾向は、性差、世代差に関係なくみられた。JIS値と異なった要因は、物体色より人工色の影響があると考ええる。また、JIS S 6028「水彩絵の具」、JIS S 6026「クレヨン及びパス」、JIS S 6006「鉛筆及び色鉛筆」などの顔料に直接、記名されている色名も、色名の認識に影響を与える要因の一つといえる。本調査では、男子より女子の方が色票への反応率は高く、色名の色を正確にイメージし、色名も多く認識していた。このことは、嗜好色や女性の服装色の多色使いなどが、色の関心度につながり影響していると思われる。また、色名の発生した時代を比較してみると、時代の新旧に関係なく、文化や生活環境と深く結びついた色名の認識が高かった。暖色系の色名は、寒色、紫系統の色名より認識されやすい傾向がみられた。

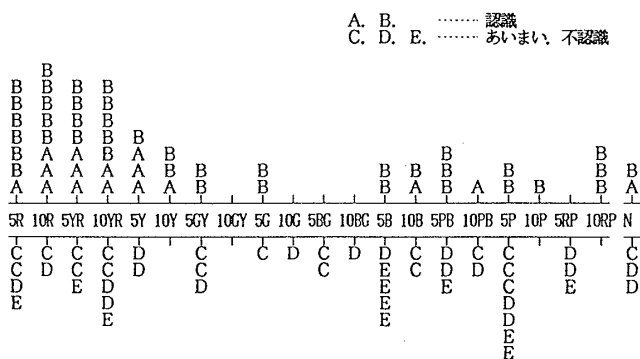


図4 慣用色名の色相分布

生活意識調査18項目では、若年層女子との平均値の差の検定より、10項目で男女間に有意な差がみられた。同年代の女子に比べ、男子は経済や外国の文化への関心が高い反面、手工芸に対する関心は低い傾向にあった。また、因子分析では、7因子が抽出された（累積寄与率65.0%）が、因子の構造には男女間で差がみられた。

色名は、生活環境をとりまく植物、動物、飲食物、等々から由来しているが、その中でも特に植物、動物名が多く用いられている。しかし、産業や技術の発展とともに、急速な環境破壊がなされ、環境悪化により世界中の多くの動植物が絶滅に瀕している。このような、社会環境は、色名の使われ方に、どう影響をあたえているものであろうか。今後は、色名の認識について、動植物に着目し取り上げていきたいと思っている。

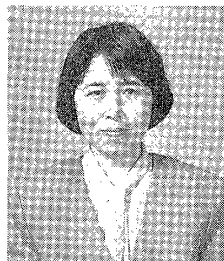
参考文献

- 1) 盛田真千子, 香川幸子: 慣用色名の認識について (第1報) 女子大生の認識, 日本色彩学会誌13-3 (1989) 206-218
- 2) 香川幸子, 盛田真千子: 慣用色名の認識について (第2報) 世代差が与える影響, 日本色彩学会誌14-3 (1990) 162-171
- 3) JIS Z 8102-1985: 物体色の色名
- 4) 日本色彩研究所編: 日本人の色の好み, 日本色彩研究所 (1981) 9-11
- 5) 近江源太郎: 色彩世相史, 至誠堂 (1983) 73-78
- 6) 尚学図書編: 色の手帳, 小学館 (1986)
- 7) 川上元郎他編: 色彩の事典, 朝倉書店 (1987) 263-269
- 8) JIS S 6006-1984: 鉛筆及び色鉛筆
- 9) JIS S 6026-1985: クレヨン及びパス
- 10) JIS S 6028-1985: 水彩絵の具名
- 11) 山崎青樹: 草木染日本色名事典, 美術出版社 (1989)
- 12) 長崎盛輝: 日本の伝統色彩, 京都書院 (1988)
- 13) 内田康夫: 鳥630図鑑, 日本鳥類保護連盟 (1989) 254
- 14) 高野伸二: 日本の野鳥, 日本野鳥の会 (1990) 254
- 15) 田端喜八編: 色と文様江戸下巻第10集, 三村推古書院 (1973) 94
- 16) 京都国立博物館: 工芸にみる古典文学意匠 (1980) 195

17) 日本色彩学会編：色彩科学ハンドブック，東京大学出版会（1980）407-408

（受付：1992. 9. 18）

著者紹介

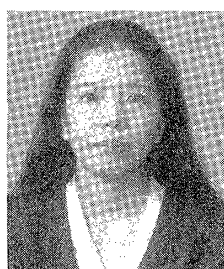


もりたまちこ
盛田真千子

昭和20年7月20日生

昭和41年 文化女子大学短期大学
部卒業，文化女子大学助教授

日本色彩学会，日本家政学会各会
員



かがわさちこ
香川幸子

昭和27年4月19日生

昭和50年 文化女子大学家政学部
卒業，文化女子大学助教授

日本色彩学会，日本家政学会各会
員

第24回日本色彩学会全国大会
研究発表要旨
1993年5月15日・16日
金沢美術工芸大学